

2022年2月吉日

会員各位

ASDO・JSCA 東京共催 技術研修会のお知らせ

シリーズ「構造設計再考」

第1回 骨組構造の変形と変形の要因

講師：東京工業大学名誉教授 和田章 先生

共催 一社) 東京構造設計事務所協会 (ASDO)
一社) 日本建築構造技術者協会 (JSCA 東京)

皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年11月初旬にお送りした前回研修会の案内状に、「コロナ禍の中で鳴りを潜めていた街に、第6波を警戒しながらも少しづつ賑わいが戻ってきているようです」と書きました。それから二カ月後の年明けから、「ものすごい勢い」という形容がぴったりと思える新株「オミクロン」による第6波が広がっている昨今です。同じ案内状に「新型コロナの影響から一年半の空白期間を置き、今回でシリーズ最終回を迎えることになりました」とあります。しかし、現在はすっかりオンライン併用の催しが定着し、当研修会もその方式を採用しながら、今後はこれまで通り3カ月毎に研修会を開催させて頂く予定です。

新シリーズは東京工業大学名誉教授和田章先生に、「構造設計再考」をテーマとしたご講演をお願いしています。私達構造設計者は、日々パソコンにしがみつき、そこから吐き出される膨大なデータを横目に図面を仕上げ、設計終了、という生活を送っていることが多いようです。そのスピードには、何かを考える間もなく、慌ただしく仕事が流れていっているように感じます。そこで今回の企画は、少しの間立ち止まり、肩の力を抜いて自分たちが仕事としている構造設計の中身を、もう一度見直す機会と考えました。和田先生はご存知のように、長年に渡ってご自分の研究・教育の傍ら、構造設計に絶えず目を向けて、そのあるべき姿を考え続けられています。その和田先生からどのようなお話をお聴きできるかが楽しみです。

皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

和田先生よりのメッセージ

構造設計に際して、骨組計算を毎日のように行われていると思います。

各部材に生じる「軸力、曲げモーメント、剪断力」については個々の部材ごとに出力されるので、各断面がこれらの部材力より強いかわ弱いかはすぐに調べることができます。

構造物全体に生じる変形は、各接点ごとに何 cm のように出力されますが、例えば地震時の建物の頂部の水平変形を減らしたい時、どの部材を大きくすれば良いかわかりません。

このたびは、変形に注目して、どの部材を大きくすれば良いのか、どの部材は細くしても良いのかわかる方法についてお話ししたいと思います。

和田 章

シリーズ「構造設計再考」

第1回「骨組構造の変形と変形の要因」

日時 : 2022年3月22日(火) 18時00分～

受付 : 17時45分より(対面会場)

場所 : オンライン配信(ZOOMもしくは、YouTubeライブ配信)

配信、対面会場 : A-Forum 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-5-5 レモンパートIIビル5F

プログラム : 司会 市村隆幸(株親交設計、ASDO副会長)

18:00～18:05 趣旨説明 金田勝徳(株構造計画プラス・ワン)

18:05～19:35 講演 東京工業大学名誉教授 和田章先生

19:35～20:00 質疑応答

参加費 講演 : 無料

その他 :

開催時期の新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて講演への対面参加を10名程度募集いたします。参加希望者は、申込時にお申し出ください。参加者へは別途お知らせいたします。

なおオンラインイベントのため機材や通信トラブルが生じた場合、中断することもあります。ご了承ください。

本研修会は、建築CPD情報提供制度及びJSCA建築構造士登録更新のための評価点の対象ではありません。

参加希望の方は、下記申込みフォームよりお申し込み下さい。

後日3/16以降にお申し込みされたメールアドレスに配信URLをお知らせいたします。

→ <https://forms.gle/aACRbsUZT7JugP7a7>



申込締切日 2022年3月16日(水)

ご不明な点などございましたら、問合せ先 e-mail:kensyu@asdo.or.jp までご連絡ください。

(ASDO事務局へのお電話による直接のお問合せはお控えください。)

追加の連絡事項などがある場合は、メールおよびASDOホームページ等でお知らせいたします。